

V I A 鉄 道 を 楽 し む

< トロント ~ モントリオール >

中 能 孝 則

石造りの駅舎

カナダの大陸横断鉄道（VIA 鉄道）は、東のトロントから西のバンクーバーまで、3泊4日に渡る長距離の列車で、さらに大都市から地方都市へはそれぞれに細かく伸びている。

今回はその一部である、トロント・モントリオール間の所要時間約 5 時間の旅を楽しむことにした。

モントリオールのセントラル中央駅は市の中心部にあり、一見するとどこかの劇場の様な感じさえする重厚な石造りの駅舎である。

（後方に見える塔は CN タワーで、世界第 2 位の高さを誇る電波塔である。550m）



ちょっと教訓

荷物の移動はポーターにお願いすべし

我々のスーツケースの大きさを見たガイドさんからは、「荷物の移動はポーターさんをお願いした方が楽ですよ」とのアドバイスをいただき手続きをしていただいた。

乗り降り双方の駅でお願いすることにした。車のところまで引き取りに来て、降りる駅では車に乗るところまで運んでくれ、その間我々は身体ひとつで移動できる。そして



料金は双方で 1 個 5 ドルである。

日本人はついつい自分たちで運ぶことが当たり前のような感じもするが、海外では旅の楽しみ方のひとつとして大いに活用した方が良いでしょう。

分からないことは聞くべし

出発 1 時間前に着いた我々は、ガイドさんに案内されたところに行き、ベンチに座って待つことにした。ガイドさんからは、「団体なので、時間になると係りの方が迎えに来るそうです。それまでここでお待ちください」と言われ、ガイドさんとはここで別れることになった。

ホームへの案内が 11:05 分。出発は 11:35 の予定となっていた。しかし自由席とのことであったので、少々心配になり 11 時 5 分前確認に行くと「Please sit down here.」。間違いないと確信してここで待つ。

しかし、11:05 分になっても 10 分になっても誰も来ない。回りはなんとなくざわつきはじめ、意を決して再び聞きに行くと「Please enter the home.」“え”。心臓は一気にどきどき、されどあわてぬ振りをして、

ホームへご案内。

ホームに上がり切符を見せ「Which is the train which we get on?」すると、ホームの係りの人はとても親切で、「Please comes to this one」と、乗る車両まで案内してくれた。

早速乗り込むと、シートはやはりフリーとのこと、4人がけのシートを二つ確保し、落ち着いたと思った瞬間に、一般のお客さんも一気に乗り込んできて瞬間に満席となり、間一髪でみんながばらばらになることを免れることができた。しかししかし、立ち席の人は誰もいなかった。

やはり、不安なことは何回でも聞くべし、そして行動すべしを学ぶことができた。

(ちなみに英語がしゃべれたわけではない。単語を並べただけである)



カナダのサービス

落ち着いたところで、再びホームに下りた。海外の列車はホームと列車の床がフラットではないことがあり、元気な人にも少々不便である。そこで、車椅子などの人はどうするのだろうと周りをきょろきょろ。

すると、車椅子のマークが張ってある車両を見つけた。車椅子の人や高齢者の人、妊婦の人は、係りの人に案内されてエレベーター乗り、誰よりも先にホームに上がり、係りの人の手伝いを借りて、車内に入るのである。

車椅子に乗っていよいよといまいと、年をとっ

ていても誰でもが列車の旅を楽しむ権利を保障しているように感じた。



カナダ時間

いよいよ出発の時を向かえ席に着く。しかし、時間が来ても一向に動く気配が無い。

以前、カナダ時間があるときいたことがあるが。何の説明も無いままに時は過ぎてゆく、おおらかといえばおおらかであるが、なにか説明くらいはあってほしい。もっとも説明があつて分からないのも事実であり。ここはじっと待つことにした。

出発時間を約30分くらい過ぎたであろうか。列車は何の放送も無いままに突然動き出し、モントリオールへの旅が始まった。

右手にはオンタリオ湖が見えてきた。しかし、行けども行けども途切れない湖、対岸は見えぬ海ではないだろうかと思うほどである。それもそのはず、この湖の大きさは四国が入るほどの大きさであるとの事、納得した。

もみじがやっと色づき始めたトロントを後にして2時間、木々の色が黄色に染まり始める。

そして、両側にはトウモロコシを中心とする穀倉地帯を走り続けて約5時間。ボンジュールの街、ケベック州のモンとリールに到着。

小高い丘は鮮やかな色とりどりに染まり、明日からのプログラムを楽しみにして、ホテルに向かう。